

秋えひ蔵へたいめんいたし度なごや

■■に^出り^こたいに大坂へつれ

上られせい^く出^勤いたした■

おそゝめ芝居どりのもの一同

すてとりに^こたつてこと■り

たても寸入にてきうか秋共

御ひいき様かたよりあつく御尋

被下難有はたてはしかやしにひいき

をかふむりたては弟も急に罷下り

がたく相成てしきしては大江戸

御ひいき様かたへ相立したくありかたき

大江戸をはてゝ市川白猿と

見とかへ大坂へ出勤いたしては

まことに^く相淋かたくよん所なく

かとなりはてし此上親弟共

相かはらん御ひいき御とりたての

ほと奉頼てこひいき様とも

御名残りは山^く■■かたし

然共一遍の御回句なら■■

しら花や扇の玉より顔あかし

八代目三升

はし云か

御ひいき御方様

御寿■へ罷らね